

数年前、赤穂市民病院で同一術者による医療事故が続いた。その医療事故をモデルにしたのではないかというWEB漫画が、今、ネットで話題になっている。赤穂市民病院は、実際の医療事故との関連を否定しているが、苦いリアリティを感じるのは確かだ。

「赤穂市民病院」に赴任した医師竹田くんは、「都会で最新の医学を学んできました。この病院の質をあげていきたいんです」と自信ありげにうそぶく。しかし、竹田くんが執刀する手術で、次々に患者さんが悪化していく。奸智にたけた竹田くんは、上司や病院内層部にゆさぶりをかけて、自分の正当性を主張し、院内は大混乱に陥るというストーリーである。竹田くんがめっちゃくちゃであるのは誰がみても明らかであるにもかかわらず、誰もその暴走を止められないのが恐ろしい。

竹田くんはフィクションであるが、決して遠い世界の話ではない。もし「竹田くん」が現れたときに、果たしてすべての病院で正しい対応ができるのであろうか？ 私の勤める群馬大学においても、過日、同一術者による腹腔鏡手術後の死亡が多発し、社会的にも大きな問題となった。失われた信頼の回復には、長い時間をかけて取り組まなければならないだろう。

医療における医師の裁量は大きい。特に外科医はそうである。ほとんどの病院において執刀医は、手術適応の判断、手術の実施、治療の妥当性の評価のすべてを行う。これらの判断すべてを一人が行うということは、判断の誤りをチェックできないということでもある。専門性の高い分野になればなるほど、適切な判断をくだせるのは自分しかいないと思ひ込み、落とし穴にはまるリスクも高くなる。権力の集中は、必ず濫用を生む。医療には、立法権・行政権・司法権の三権分立のようなしくみはなく、その構造は本質的に脆弱である。その危うさを心に留めつつ、カンファレンスで開かれた議論を尽くすことが、われわれの責務であろう。

(筑田博隆)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

山崎正志 (編集委員長)
亀山 隆 園生雅弘 高橋敏行
高見俊宏 筑田博隆 永島英樹
中村雅也 根尾昌志 原 政人
飛驒一利 堀 正明 松山幸弘
安原隆雄

Vol. 36 No. 5
(2023 年 6 月 30 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価 (本体 2,500 円 + 税)
(配送料別)

年ぎめ予約購読料 33,300 円 + 税
送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>
(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社
TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2023,
Printed in Japan

3COPY (出版者著作権管理機構 委託出版物)
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。